

## 4つのスポーツチームと協力した応急手当の普及啓発

北海道 札幌市消防局

### 1 はじめに

札幌市消防局（以下「当局」という。）では、児童及び生徒に対する応急手当の普及啓発の充実強化を図るため、札幌市内に本拠地を置くプロ野球チームの北海道日本ハムファイターズ、プロサッカーチームの北海道コンサドーレ札幌、プロバスケットボールチームのレバンガ北海道、フットサルチームのエスポラーダ北海道の4チーム（以下「4チーム」）に御協力をいただき、応急手当普及啓発に関する各種施策を展開することとなりましたので、御紹介します。



### 2 札幌市の応急手当普及啓発活動の経緯

当局では、「応急手当の普及啓発活動の推進に関する実施要綱」（平成5年3月30日付け消防救第41号 消防庁次長通知）に基づき、平成6年から、生産年齢人口（15～64歳）約130万人の20%（26万人）に対する心肺蘇生法等を中心とした市民に対する救命講習や指導者の養成等を目標に、各種の応急手当の普及啓発活動を展開してまいりました。

平成27年11月に当初の養成目標を達成したことから、平成28年8月に応急手当に対する意識調査（市民アンケート）を実施したところ、講習の受講者でも、「一人では不安」あるいは「気が動転しそう」等の理由で、実際に心肺蘇生法を行うことについて、ためらうことが懸念される現状が明らかとなりました。

そこで、今年度から、養成数に重点を置いた体制を見直し、全ての市民が応急手当を実施できる社会の実現を目指し、市民誰もが高等学校を卒業する（社会に出る）までに、繰り返し応急手当に関する知識及び技術を学ぶことのできる体制を構築するため、講師を派遣して行う救命講習（以下「団体講習」という。）について、原則、小学校4年生以上の児童、中学校及び高等学校の生徒を主な対象として実施しています。

### 3 スポーツチームとの連携

小学校、中学校及び高等学校の各年代における団体講習の受講率を高め、将来的な応急手当の実施率の増加及び継続的な救命率の維持向上を図るためには、当局が主な対象として位置付けている児童及び生徒の講習の受講を喚起することが必要と考えました。

そこで、今年度から、4チームに御協力をいただき、以下の応急手当に関する各種施策を展開する運びとなりました。

#### 【協力概要】

- (1) 救命講習テキスト「とっさの時の救急ガイド」の共同制作
- (2) 講習実施校への各チームの選手又はマスコットの訪問
- (3) 「救急の日」（9月9日）における応急手当普及啓発イベントの共催

### 4 救命講習テキストの刷新

救命講習で使用しているテキスト「とっさの時の救急ガイド」について、児童及び生徒向けに、大幅に刷新しました。

テキストには、各チームのロゴや選手の写真、マスコットのイラストを使用するほか、応急手当に関する選手からの直筆メッセージとサインをいただき、児童及び生徒が「欲しい!」と思うようになりリニューアルを目指しました。

## 救命講習テキスト「とっさの時の救急ガイド」



札幌市消防局  
〈旧〉



札幌市消防局  
〈新〉

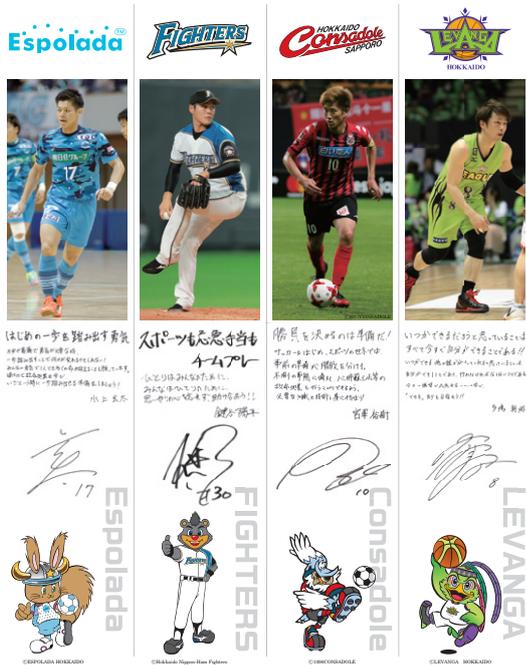
## 6 「救急の日」イベントの開催

今年度は、9月から、救命講習実施校への訪問活動を開始することを広報するため、「救急医療週間」の初日である9月3日(日)に記念イベントを開催しました。



(左から北海道コンサドレ札幌「ドーレくん」、レバンガ北海道「レバード」、大島札幌市消防局長、エスポラーダ北海道「リスポ」、北海道日本ハムファイターズ「B☆B」)

## 選手たちから熱いメッセージ！



〈選手からの直筆メッセージ〉

イベントでは、4チームに「次世代のバイスタンダー育成特使」と『救急の日』広報大使の任命書を交付し、4チームのマスコットと一緒に、来場者に対するAEDを使用した心肺蘇生法の実技指導等を実施しました。



〈4チームのマスコットによる実演〉

## 5 講習実施校への訪問活動スタート

9月からは、各チームのマスコット又は選手が、救命講習を実施する小学校、中学校及び高等学校に訪問し、児童及び生徒と一緒に心肺蘇生法等の手順を学ぶことを通じ、応急手当やAEDの大切さを伝える活動を開始することとなりました。

## 7 最後に

当局では、これからも市民の皆様から寄せられる御期待に違わぬよう、4チームとともに、「全ての市民が応急手当を実施できる社会の実現」を目指し、引き続き応急手当の普及啓発活動に邁進してまいります。